

看護基礎教育における海外研修の現状と課題に関する文献レビュー

A Literature Review on Current Status and Issues of Overseas Training in Basic Nursing Education.

○北村真由美¹, 清水八恵子¹, 小園千草¹
Mayumi Kitamura, Yaeko Shimizu, Chigusa Kozono

1 朝日大学
1 Asahi University

【背景と目的】

日本の医療保健サービスは、世界からも高く評価され、質の高い医療保健福祉サービスが提供されている。厚生労働省は、医療国際展開の取り組みとして、医療の分野で国際貢献を果たして行くことが重要な課題とした(三宅, 2015)。また厚生労働省(2007)は、看護基礎教育の充実に関する報告書の中において、「看護の統合と実践」を教育内容として新たに位置づけし、国際社会において、広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力を考えることができることを内容に含めた。多くの看護系大学では海外留学や研修制度を取り入れ国際看護を学んでいる。

2020年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響による渡航制限により、海外研修が困難な状況にあるが、国際看護に触れる機会や学ぶ機会をなくしてはならない。医療を取り巻く情勢は、臨床も教育現場にも影響を与えているが、視点を変えれば国際看護を学ぶ環境を更に広げる機会にあるのではないかと考えた。

そこで本研究では、今までの海外研修における学びや課題を概観することにより、渡航できない状況下においても国際交流の在り方についての課題を明らかにし、国際看護の新たな教育環境への示唆を得ることを目的にレビューを行った。

【研究方法】

1 研究デザイン

文献レビュー

2 文献検索と対象文献の選定方法

文献の選定は、医学中央雑誌 Web 版 Ver. 5 を使用し、2022 年 4 月に行った。看護基礎教育において、国際看護についての動向を把握するために、「原著」、「看護」を条件とし、キーワードを「看護基礎教育」「海外研修」で検索を行い、総文献 44 件が該当した。さらにカリキュラムの編成や社会情勢を踏まえ、教育状況の変化が考えられるため、過去 10 年の 2012 年 3 月から 2022 年 3 月までの文献 34 件について、国際看護に関連していない文献、英語学習や獲得を目的とした文献、海外からの留学生を対象とした文献等を除外し、21 件を対象に精査した。

3 分析方法

対象となった文献を、発行年、研究目的、研究対象、結果、考察の項目に沿って整理を行い、これらから国際看護の教育の実情や課題について精査した。

4 倫理的配慮

対象文献を精読し、論旨及び文脈の意味・内容を損ねないよう、また引用文献・参考文献の著作権を侵害しないよう研究者間で十分に検討を行い、最大限配慮を行った。

本演題の発表において、開示すべき COI はない。

【結果】

1 研究の背景

発表された文献は 2012～2015 年が 6 件、2016～2018 年が 8 件、2019～2021 年が 7 件であった。

対象文献は、国際看護実習の教育効果について明らかにしたものが 7 件、国際看護活動や国際交流の実態や課題を明らかにしたものが 7 件、異文化交流について示したものが 5 件、海外研修の意欲や満足度について明らかにしたものが 2 件であった。

国際交流や海外研修について、学生は世界の看護の現状や国際協力が必要とされる能力等に関心があり、実際に海外研修を行うことにより国際間の看護の比較や文化や価値観の違いに気付くことが明らかにされていた。しかし課題として、国際看護について国際的視点を持った教員が少ないこと、事前に国際交流の意識の向上を図る必要があること、多様な社会背景や歴史についても理解していくための学習が必要であることが挙げられた。また海外研修を行うために学生を支援する補助金や予算の獲得が必要であることも述べられていた。

【考察】

国際看護として海外研修を通じて異文化に触れ、日本との医療福祉の違いを学ぶことは学生にとって価値ある経験となる。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響や経済的な問題により海外に渡航できない状況が今も続いている。補助金や予算についての課題からも、学内でオンラインを活用した交流や、在留外国人との交流を図ることは、各国の医療事情を把握し、国際看護を学ぶ有効な手段であるのではないかと考える。

【文献】

厚生労働省(2007). 看護基礎教育の充実に関する報告書.
<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/dl/s0420-13.pdf>
三宅邦明(2015). 厚生労働省における医療の国際展開に対する取組.
<https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/cgh/think/wp-content/uploads/2015/12/>